

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ



幼保小連携推進地区活動報告から

令和4年1月末までに、全31地区すべての幼保小連携推進地区から活動報告書が提出されました。残念ながら報告会は中止となってしまいましたが、ホームページ等で発信していきますので、ぜひご覧ください。(右)

この連携だよりでも、各地区の工夫を凝らした交流・研修等をご紹介します。

～公園での出会いはコロナ禍でも比較的取組みやすく
子どもたちの感動が期待できる取組みです～



6年生がしてくれたように
やさしく手をつなげた



みせてー
何がとれたの

公園での子ども同士の偶然？の出会いから交流を進めていった事例

「めろん組の〇〇ちゃんが、「また遊ぼう！」って言うてくれて、私も嬉しい。」名前が分かるような個別の交流を含めることで相手を知り互いに相手を意識できる楽しみや喜びも生まれてきます。(報告書より)

～職員の連携・交流で、
小学校の先生の「引き出し」も
ひろがります～

入学後登校初日、各クラスに園の職員が入り、手遊びや読み聞かせなどを行った事例。(その後担任の指導の様子なども参観)



子どもたちの表情がやわらぎ「学校」「教室」の敷居が少し低くなった。小学校教員は園で使っていた子どもたちに馴染のある言葉かけやワードを知ることができ、参考になった。(報告書より)

(引き続き、令和3年度幼保小連携推進地区報告書から)

～なぜ、幼保小をつなぐことが必要かを考える～

「幼少期の教育が、その後の学校教育、さらに大人になってからの活動の基盤をつくる」

そのために、幼児教育と小学校教育の各々の充実と双方の理解が欠かせない。

B-3 園の先生と共に全職員で校内研修 (5月)



國學院大学の
田村学先生、
吉永安里先生、
文部科学省教科調査官
齋藤博信先生、
こども青少年局
鈴木暁範先生

をお呼びして、スタートカリキュラムの理念や意義についての校内研修会を開きました。



スタートカリキュラムの実態を知っていただくために、ナザレ幼稚園の教務主任野崎先生も一緒に研修に参加していただきました。

スタートカリキュラムは1年生に関わる先生だけでなく、学校全体で取り組むことの大切さ、また、スタートカリキュラムの理念は、6年間を通して活用していくことの大切さを学びました。

記念植樹を通して語らいの時間をもったり、講師を呼んでのスタートカリキュラム校内研修会に、園の先生も参加したりするなど、双方向から積極的に交流することができた。互いに子どもたちを温かい目で見たいこうという共通認識をもつことができた。同じ方向を向いて、幼保小連携を推進していこうという確信ができたことは、大きな成果だったといえる。(報告書 成果と課題より※)

◆ R3年度第4回幼保小接続期研修会 (動画配信型) を開催します

テーマ「幼児期に身に付けた力を発揮して、主体的に学びに向かう子どもを育む」
～「遊び」への理解を深め、カリキュラム・マネジメントにつなげる～

研修Ⅰ「子どもが探究心を発揮できる遊びを通した保育・教育」
(港北幼稚園・野庭第二保育園)

研修Ⅱ ①「スタートカリキュラムのねらい」(幼保小連携担当)

②「スタートカリキュラムの実際」(初音が丘小学校・日限山小学校)

- 日時 令和4年3月21日(月)～4月29日(金)
- 申込方法 幼稚園・保育所・認定こども園関係者
→電子申請システムから
「研修・研究情報」のHPからリンク
小学校・義務教育学校等関係者
→Leafから
研修コード「21youh4」
検索キーワード「接続期研修」で検索
- 申込締め切り 4月22日(金)

◆ 横浜版接続期カリキュラム 実践事例集 (第8集) を刊行します

接続期カリキュラム実践事例集 (第8集) を刊行します。

現在、各園、学校への発送を行っています。1部ずつ提供いたしますので、ご活用ください。



横浜市こども青少年局 子育て支援課 幼保小連携担当

◆横浜市中区本町6丁目50番地の10 ◆671-3731